

就職試験にむけて

「お母さんただいま、今日も模擬面接つきあってね。」

高校3年生の子どもは就職を希望し、筆記試験の勉強や面接の準備に取り組んでいます。学校では先生から何度も模擬面接を受けていますが、初めて受ける面接試験に、子どもの不安が日に日に大きくなっていくのが伝わってきます。家庭でも、子どもの自信に少しでもなればと、学校の模擬面接質問用紙を見ながら、面接官になったつもりで協力しています。

「あなたが学校生活で一生懸命取り組んだことは何ですか。」

「あなたの好きな教科を教えてください。」

「あなたの自己アピールをしてください。」

私の質問に、子どもが答えていきます。

「だんだん上手に受け答えできるようになったわね。もう少し大きな声のほうが、元気さが出ていいわよ。」

さらに質問を続けます。

「あなたが当社への就職を希望された理由は何ですか。」

「はい、私が御社を希望した理由は、私の母が働いている姿を見て、私も母のように社会に役立つ仕事がしたいと思ったからです。」と子どもが答えます。

「そうですか、ところで、あなたのお母さんはどちらにお勤めですか。」と私が問うと、

「えー、家族の勤め先を聞くのはダメだよ。今のは就職差別につながる不適正な質問になるよ。たしか、もしそのような質問をされたら、『家族の職業を聞く質問については、答えなくてよいと学校で指導されていますので、お答えできません。』と答えるんだよ。」

さらに子どもは続けました。

「就職の採用選考はね、本人の適性と能力のみを基準に判断されるものであって、家族の職業や家族構成、住宅状況にかかわる質問や思想信条にかかわる質問は、就職差別につながるおそれがあるんだよ。」

私は、軽い気持ちで聞いた質問なのに、子どもからこんなふうに言われてびっくりしました。

「でも、お母さんの勤め先を言っても、あなたが就職差別されるとは思えないけど。逆に、そのことを面接で言えばアピールできるんじゃないの？」と私が言うと、

「うーん、でも、就職するのは私だし、家族の就いている仕事で合格、不合格が決まるなんておかしいよ。それに、いろいろな事情で、家族のことを聞かれて嫌な思いをする人もいるでしょ。」

さらに子どもは、就職試験の全国高等学校統一応募書類でも、かつて本籍や家族構成の欄があったこと、これまでの長い取組によって公正な採用選考の制度がつくられたことなどを学校で学んだと話してくれました。

子どもの就職試験を通して成長している姿を見て、うれしくもあり、また、社会に出て行く頼もしさも感じました。